鉄筋防錆について考える』

わが国における深刻な社会問題となっているコンクリート構造物の老朽化に立ち向かうには、計画的な維持管理の推進に加え、すでに補修した構造物の再劣化を防ぐことも重要となる。そこで、本紙では新春座談会「コンクリート構造物の鉄筋防錆について考える」を開催。対策の鍵といわれる鉄筋防錆について重要な遮断被覆となっている脱塩リハビリ工法と電気防食工法をそれぞれの推進団体の代表者に参加してもらい、協会及び工法の概要や展望等について大いに語ってもらった。

電気防食工法

性能完璧だがコストが課題
2工法は好相性。コラボ可能性も

日本エルガード協会次世代技術者の会幹事
田中一弘氏

――まず、電気防食工法の概要について教えてください。

田中　電気防食工法は、鉄筋腐食を絶対に止めることまでは言えないが、腐食速度を100年程度に抑制する工法。コンクリート中の鉄筋にマイナス、外部に設置する陽極材にプラスの電流を流すことで、鉄筋腐食の電気化学反応を抑制する。

――電気防食工法の特徴は。

田中　電気防食工法は、コンクリートの劣化因子である塩化物イオンや水分、酸素を遮断するのではなく、鉄筋の腐食反応を抑制する工法。塩化物イオンが鉄筋に到達しても腐食しにくくなるため、塩分量が多い場合や、かぶりが小さい場合でも適用できる。

――電気防食工法の施工方法は。

田中　電気防食工法には、外部電源方式と流電陽極方式の2種類がある。外部電源方式は、陽極材を設置し、直流電源装置から電流を流す。流電陽極方式は、陽極材と鉄筋を導線で接続し、陽極材と鉄筋の電位差によって電流を流す。

――電気防食工法の施工実績は。

田中　1990年代から施工実績があり、これまでに約1000件の施工実績がある。

――電気防食工法の課題は。

田中　電気防食工法は、電気を流すことで鉄筋腐食を抑制するため、電気代がかかる。また、電気防食工法は、陽極材や配線、電源装置などの設備が必要となるため、イニシャルコストが高くなる。

――電気防食工法の維持管理